

沖縄・辺野古レポート(その2)

(元中学校教員 池村好順)

一人の女性が基地内の機動隊員と口論に・・・
一体なにが起きたのか。



写真は2月18日の
琉球新報記事より
キャンプシユワフ前の
座り込み

端正な目鼻立ちのその女性は、落ち着いて私に語ってくれました。

「この紙飛行機を、金網越しに基地に飛ばしただけ……。そしたら、機動隊員がいきなり注意してきたから、言い返してやったさ。あんたたちは、こんな小さなことでいちいち文句つけるけど、オスプレーはどうなってるの!大きな音をだして、我が物顔にわたしたちの頭の上を飛び回っているよ。危険なオスプレーをなんとかしなさいよ。……………」

小柄な女性だが、ひるまずに若い機動隊に反論していたのです。現場でたたかっている人のしたたかな強さが伝わってきました。毎日、名護市から通い、今朝の早朝座り込み行動にも参加したと話してくれました。この時期辺野古では、早朝に工事車両が基地内に頻りに工事資材を運び込んでいるといいます。ほんとに迂闊でしたが、気がつきませんでした。私は最初のテント村の印象を「のどかな感じ」と表現してしまいましたが、その日の早朝のたたかいがひと段落し、テント村は穏やかさを取り戻していたということだったのです。女性は話を続けました。

「今、トン・ブロックも入って来てるさね。本体工事を始めたというけど、なかなかすすんでないんじゃないの。沖縄の防衛局、焦っているだろうね。……………」

女性は、今朝の座り込みの様子も少し話してくれました。トン・ブロックとは、巨大なコンクリート・ブロックのことです。

この間、沖縄防衛局は、工事にあたって辺野古の海の広大な区域を「立ち入り制限区域」にしてしまいました。そして、フロート(浮具)やブイ(浮標)で囲みました。これらを固定する為のアンカーが必要になり、コンクリート・ブロックを使いましたが、強烈な台風でこのアンカーが多数流されてしまいました。そこで、巨大なコンクリート・ブロックへの使用に切り替えたのです。すでに最大45トンものコンクリート・ブロックが海底に投入されているといいます。そして、さらに56・7トン102個の「重り」を

設置する無謀な計画も浮上しています。辺野古のダイビングチーム「レインボー」の撮影した写真には、すでにコンクリート・ブロックに押しつぶされた珊瑚が無残にも映し出されました。辺野古の海には、ジユゴンの餌場も喰み跡も見つかっています。生物多様性の宝庫といわれる辺野古・大浦湾に巨大なコンクリートを投入し、住民の反対を抑え込み、巨大な米軍新基地を造るという常軌を逸した行動が、「粛々」と行われているということです。

この女性を含め辺野古テント村に集結する人々は、工事車両を基地に入れなため早朝から座り込みを続けることが多くなっているようです。未明から準備し家を出なければ間に合いません。本当に頭の下がる思いです。「勝つまでずっとあきらめない!」と、テント村の男性のTシャツの背中にくっきりと描かれている言葉の重みを考えさせられました。

私たちが辺野古を訪れたのは11月27日。すでに辺野古・新基地建設の政治的状況は新たな段階に入っていました。翁長雄志知事は、10月13日埋め立て承認の取り消しを発表しましたが、28日に国土交通省がその抗力を止める『執行停止』を決定しました。その上で、翌29日沖縄防衛局が埋め立て本体工事に着手し、中断していた海底ボーリング(掘削)調査の作業も再開し強行しました。沖縄県民の民意を無視し、国家権力が新たに「牙」をむいている期間に、私たちは辺野古を訪問したことになります。

今回の訪問で、私はどうしても会いたい人がいました。その女性に八幡西革新懇の自分の名刺を手渡し、「山城博治さんは、元気にされていますか」と訪ねました。映画「戦場ぬ止み」で、しばしば映像に登場するテント村のリーダー・「ミスター・シュプレヒコール」です。映画のエンディングで、彼が重い病に罹ったという字幕が流れました。(次回)

ヘイトスピーチの現状から



在日2世の
金 貞子さん
キムチョンジャ

「いま崩れゆく平和…希望を求めて」のテーマで開かれた2・11集会で、金貞子さんがヘイトスピーチについて、現状やその背景などを弁護士、教授などの方々から学んだことを報告されました。（2月11日(木) 西南韓国基督教会会館にて）

1、現実から

まず、どういう言葉が飛び交っているのかを紹介しました。「朝鮮人首吊れ」「毒飲め、飛び降りろ」「よい朝鮮人も悪い朝鮮人もみんな殺せ、ガス室にたたき込め」「ウジ虫朝鮮人、日本からたたき出せ」…。このような命を脅かすほどの、存在そのものを消されるような言葉が平然と言われ、日本の皆さんには響かないかもしれないが、私たちは「ぞっとする」と話しました。子どもの頃から差別のことはあったけれども、これほどのものはなかったと言われました。

ある教授の研究によると、このようなヘイトスピーチは2013年頃から社会問題化されたと言われているが、もっと前からあり、在日コリアンに対する攻撃は日韓関係の反映と言われているとのことです。その歴史を遡れば、「在特会」「ネット右翼」などあまり知られていなかった2004年当時の、石原都知事による差別発言にいきつくとも。そして公人の差別発言は、欧米で警戒される反ユダヤ主義に匹敵するもので、典型的なヘイトスピーチと言えるとのことです。その石原発言が以後のヘイトスピーチを誘発したとみられ、嫌がらせの手紙が

頻繁に(在日の人たちに)届くようになったのですが、その手紙の差出人の中には、実名入りで、社会的な地位のある医師とか企業役員もいるとのことです。彼らは、右傾化した現安倍政権を水面下で支える層ともつながっているとも話し、「ゼノフォビア」という、移民や難民を標的にする新しい形の人種差別と同じと言われました。そして石原発言のあったその時期には、中国台頭論や慰安婦問題で強制連行は無かったなどが言われ始めた頃です。金さんは、「政策の一つとして、日本を貶める謀略であり、韓流ブームをも文化的侵略ととらえた時代へと日本が変化した」と語り、「被害者日本を守る、という大義名分をたてたのではないか」と思うと話しました。また、在特会による街頭宣伝は目につきやすいが、見えない部分の「嫌中」「嫌韓」の裾野が幅広くあり、安倍政府と石原慎太郎氏の支援者とも結びついていると語り、在日コリアンの権利保障や戦後補償問題とも「切り離すことはできない」ものであるから安倍政権の歴史認識問題、歴史修正主義を解決しなければ、ヘイトスピーチの根は残ってしまうと話しました。その根はもっと深い日本人内部のアイデンティティに関わる…次回へ

《アムネスティ》下関通信 (2016/3)

下関市役所前ひろばに、小柄な「非核平和宣言塔」が建っています。約30年前発足の「10フィート映画(終戦年の被爆フィルムを米国から10フィートずつ買い戻して作った映画)を上映する下関市民の会」(代表 赤司瞭雄)が、2万余名の署名集めをし、市長室に運び、市が建立したものです。以後30年間、毎夏この塔へ向って「市民平和ウォーク」を行う等、赤司医師はたゆまず本州の端から非核メッセージを発信しておられたのですが、2/15、88才で、急性心筋梗塞にみまわれ突然天に召されました。

先生は「10フィートの会」のみならず、市内の市民運動体を物心共に支えて来られ、アムネスティ下関グループ発足の折も、即「入会します」とその場で自ら本部への入会手続きもされ、その清廉なお人柄が市民から慕われておられました。

告別式で、長年の同志、親友でいら

した林神父(労働教育センター)は「先生は病人と共に人間社会の病根をも診ておられた」と讃辞と深い哀悼を述べられ、弔電200本の中唯一読みあげられたのは、下関在任中、人生の特別な出会いを経験された札幌ルーテル教会牧師からのもので、「平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」、「今日あなたは神の子になられた」につながる哀惜と慰めに満ちたものでした。デスマスクは「走るべき工程を走りつくした」かに、安堵の微笑みに、希望の色さえたたえておられました。

先生にはいつか、アムネ総会で日本発の反核メッセージを世界へ放って頂きたかったです。折しも、東京在住の孫娘から「あした“立憲主義と安保法制”の論述試験があるの」とのTEL。先生、先生のご遺志を継ぐ若者たちが歩み始めています。どうぞお見守りください。(2016.2.25 アムネ下関、山県)

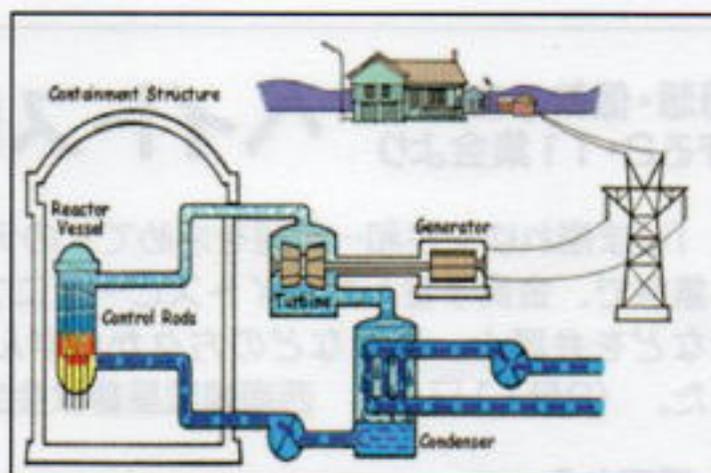




だいがく はじめ
大学 — 弁護士と学ぼう

①

“原子力発電のこと”



沸騰水型原子炉図 Wikipediaより

私は、福島県の双葉郡大熊町と双葉町に設置された東京電力福島第一原子力発電所と、富岡町と楡葉町に設置された東京電力福島第二原子力発電所の設置・運転反対の住民運動にかかわってきました。

福島第一原子力発電所というのは、1号基が46万kW（キロワット）、2号基から5号基までがそれぞれ78.4万kW、6号基が110万kWの6基総計469.6万kWの発電所です。一方の福島第二原子力発電所の方は、1号基から4号基までがそれぞれ110万kWで総計440万kWの発電所です。これら福島第一、第二の原子力発電所は、いずれも「沸騰水型軽水炉」といわれている発電所です。

原子力発電所には、「沸騰水型軽水炉（BWR）」と「加圧水型（PWR）」があります。加圧水型は、「加圧器」というものを使っていますが、沸騰水型では「加圧器」が用いられていません。しかし、どちらも、炉心の熱を取り出すのに水を使うタイプの原子炉であり、炭酸ガス（二酸化炭素）で熱を取り出す「ガス炉」や液体ナトリウムを使う「高速増殖炉」ではないのです。

「加圧水型炉」の長所は、放射能汚染が一次冷却型に限定され、二次冷却水まで伝わらないといわれているところにあり、欠点は、冷却システムが複雑になっており、加圧するため、機器に無理がかかるところにあるといわれています。「沸騰水型炉」の長所は、冷却系が一系統のため、構造が単純で簡素な構造になっており、つまり構造がシンプルであるところにあり、欠点は、①冷却水に含まれる不純物などが炉心を巡るうちに放射能をあげて汚染され、その汚染された水が水蒸気となってタービンを巡るため、放射能の影響が広範囲の機器に及ぶこと②タービンの整備・点検の際などに作業員の放射線被爆の危険がある③冷却水中の放射性物質の放射能汚染があるため危険である、という点にあるとされています。

世界的に見ますと、軽水炉の中で加圧型が圧倒的

に多い状況にあり、日本の場合は、沸騰水型と加圧水型とがほぼ同数位になっているようです。その原因は、日本の場合、原子力発電を目指すにあたって、①三菱重工業がウェスチングハウス社から技術を導入したこと②日立製作所と東芝がゼネラルエレクトリック社から技術を導入したことによって、国内の各電力会社向けの建設が進められてためであるといわれています。そのため、東京電力・東北電力・中部電力・中国電力・北陸電力が沸騰水型をとり、関西電力・北海道電力・四国電力・九州電力が加圧水型炉という2つの流れがつけられているのです。

原子力発電所では、燃料として「ウラン」や「プルトニウム」を使用します。そのため、放射能が発生することによる危険を避けることができません。この放射能、死の灰の危険性を考えるとき、次のことが私たちの頭をよぎります。それは、原子力発電所の場合には、「電気出力110万kW」の原子炉を「一年間」操業すると、1つの原子炉の中に①広島型原子爆弾の約1200発分の「濃縮ウラン」②長崎型原子爆弾の約80発分の「プルトニウム」の死の灰が蓄積されるといわれていることです。2011年3月の東日本災害の際の福島第一原子力発電所に関する日本政府の発表によりますと、福島原発「第一1～3」で「2011年3月だけでも」①セシウム137が合計で1万5千テラベクレル②ストロンチウム90が合計で140テラベクレルの放射能線が放出されたということですから、これは、広島原爆の168.5倍になります。また、③ヨウ素131～は16万テラベクレルとの発表ですから、これは広島原爆の約2.5

広島に投下された原爆
Wikipediaより



倍となる計算になります。日本政府は、広島原爆の約168個分に相当するとしています。このことについての東京大学アイソトープ総合センター（センター長 小玉龍彦）のウラン換算によると、広島原爆の20個分になるといいます。

残存する量についてみますと、「一年間経った場合」の残存量は、広島原爆の場合には「1000万分の1」程度に低下していたといわれています。これに対して、福島原発の場合には「2011年3月11日からの放射性物質」は「10分の1」程度にしかならないと指

摘されているのです。福島原発の場合は、既に5年間を過ぎようとしています。今なお終息していないからです。

人間が安心して生きるためには、生命と生活の危険をなくす以外にはないのです。この社会において、最も価値の高いものは人間の生命であり、身体であり、健康です。それを脅かし、侵害するものは、それを取り除くこと、消滅させることでなければなりません。それには、原子力発電を直ちに「ヤメル」ことであり、破棄する以外にはないのです。（次回②）

感謝 (Y)

いつも心のこもった広報紙、感謝しております。教会では聞けない真実をすることができます。祈りしかできない私ですが、少しでもお役にたてたら幸いです。

読者の皆様から届きました

韓国の文化と歴史を学び交流したい (古)

昨年9月に北海道の強制労働で亡くなった韓国人たちのご遺骨がソウルに里帰りしました。関わられた浄土真宗の僧侶の一人が、私の知り合いでしたので、ソウルでの葬儀と納骨に参列させていただきました。その時はソウルの中心にあるソウル広場で大きな葬儀、そしてソウル市の墓地であるパジュ市のヨンミ第2墓地への納骨と、ソウル市が大々的にバックアップされているのを見て驚きました。多くの方が来られ、韓国の人々の亡くなった（特に異国で孤独と苦しみのうちに）方々に対する想いの深さを感じました。日本人の一人として申し訳ない思いと安らかに休息下さいという祈りを込めてその場にいました。この行事には日韓両方から企画、参加され、ひとつの行事を通して日韓の市民が協力しあってなされた交わりを見ることもできました。

お金さえ払えばという政治家の発想でなく互いの思いを分かち合い、共に働くなかで、二つの国の間の距離が近くなるのではないのでしょうか。これから何ができるか未知数ですが、謙虚に韓国の人々の文化と歴史に学びながら交わりを深めていきたいと思っています。（広島読者）

大学一さんの記事楽しみです (K)

1月号の大学弁護士さんの自己紹介読みました。なんと素晴らしいというか、すごい方ですね。そう感じました。松川事件のこともあれからネットで調べました。自己紹介文が実にわかりやすく、読み手に丁寧に伝えようというお気持ちが伝わります。原発のこともしっかり学びたいと思いますのでよろしくお願ひします。

歴史問題にみる日中関係を読んで (驚)

私は20年前から中国残留孤児と関わってきました。初めは生活指導員として家族が日本に定着する際のお世話をし、今は日本語教室で日本語を教えています。2006年に9・18歴史博物館にも行き、レリーフに囲まれた大きなホールに入った途端、涙がこぼれました。

最近、日本が行った中国への侵略戦争の歴史を修正する動きが目立っており、日中の和解をどんどん遠ざけているようでとても残念です。ドイツは戦後、周囲の国々の人々に謝罪し二度と侵略を行わないことを行動で表してきた結果、世界においても信頼を得ることができたのです。日本はどうでしょう？戦後の日米安保体制下にあって主体的に動けなかったとしても、侵略戦争を認めず、アジア諸国の人々に謝罪や和解に向かう政策を怠ってきたことはいなめません。民間レベルでの活動ももっと積極的に模索しなければならないと思います。

二度と過ちが起こらないようにするにはどうしたらいいのか。そのことを若い世代に伝えなければ、いつまでも日中の人々は和解できません。日本人の多くが中国での日本による侵略戦争を知らないという状況下で、残留孤児の皆さんはその人生をかけて戦争の残酷さを示しています。今や70才を超え、この2～3年で亡くなる方が増えました。この方々の悲惨な体験を繰返してはなりません。何百万もの戦争犠牲者のために、日中・日韓が和解へと進んでいける道はないのでしょうか。

日本語のクラスには撫順から帰ってきた人たちもいます。孤児となり着るものも靴もなく、炭鉱で働いた人もいます。一日3交替の靴下工場で働き続けた人もいます。目の前の残留孤児の皆さんのことと、今の世の中の動きの隔たりとやもどかしさに悲しみを感じています。（北海道の読者）



初めまして (沖縄通信員)

2月13日生まれの結都くんです。

札幌の贈り物

(編集部へ届きました)

ありがとう

マルセイバターサンド

歴史問題にみる日中関係 ③

「慰安婦」に太陽を

(連続6回)



作家・ドキュメンタリー映画監督

班 忠義さん

※文責／編集部

もう一つは、相手の悪いところを見させて差別意識を育てるのが戦前戦中でしたが今も同じようですね。中国の悪いところをマスコミが取りあげ、軍事脅威だ、日本人を守るために頑張ろうと。でもこれは感情的な政治犯です。なぜなら中国を1つの国の概念で見ているから。中国には13億人いて、いろんな考え方があります。中国が悪いとか、いいとかいろいろ見方があると思います。日本人は小さい頃から嫉などいいところがあります。きちんとしたルールを作ります。でも日本の昔のルールは日本人でさえ縮みます。満州の時代、ソ連軍が入ると逃げられないからと自決を要求されたり子どもの首を絞めるようなことをやりました。すよね。実は私、そういう人と付き合っこの道に入りました。

なぜ私が日本でこういう証言活動やこういう映画を作ったのか。それは人間には使命があるから。私がなぜ撫順に生まれたのか。側に誰がいたのか。日本人が多くなりました。声も出せない、親もいない残留孤児ですね。(映像を指し)この人は残留婦人で「曾おばさん」で長野県出身です。大陸の花嫁。満州は土をにぎれば油が出る、そう言って強制的に行かせ結婚させられたんです。そして終戦になると集団で逃げますが子どもたちがいました。殺すか、川に捨てるか、中国人に預けるか。この曾おばさんは抱いて日本に帰ろうと思っただんですが、結局、ここに住まなければならなかったんです。そういう悲惨な戦後があり私はそう

いうような人と出会い、日本語を習って大学にいきました。

1950年代に朝鮮戦争が始まると中国は51年〜52年に、蒋介石政権時の区長や軍隊の中隊長以上を全部処刑するくらい徹底的に弾圧しました。その背景には朝鮮戦争があり、台湾の国民党政権が、アメリカと協力して大陸へまた来るといふ空気があったから残党を根こそぎ処刑したんですね。証言を聞くと、このとき革命鎮圧で42名を子ども達の目の前で首切りをしたり中国共産党は何十人と銃殺しました。このように日本軍も中国共産党もずっとやってきたんですね。何がそれをさせたのか。実は旧軍人の飛永さんという人が私の取材で、中国の戦場へ送り出されたら人間は機械のように戦える軍人に育てられると。その言葉は「一人前」。飛永さんは東大卒で中国の最前線に小隊長として行ったんですね。最初部下たちの目が「イカレている狼のよう」な目をしていて怖かったと。なぜか。戦場で毎日人間を殺さねばならない、と人間の表情、目つきが変わるんですね。飛永さんは、この部下たちを制御できるのだろうか。指導者ほど難しい。そのよう

なところで飛永さんたち下士官20人位は、生の人間を殺す訓練を最後にさせられるんです。証言を聞きました。首切り訓練。22人の中国人を連れてきて最初の下士官はさっさと切り、3番目が飛永さん。東大卒でいろんな知識を持っている彼がその時思ったのは人間は皆人格者、平等に殺していいのかと。しかしそのようにためらうとき周りを見なければなりません。(続く)

編集後記

未公開株の金銭トラブルで、自民を離党した武藤議員・下着ドロボーで騒がれる高木復興大臣・甘利明氏の金銭授受疑惑・不倫を認め辞職した宮崎議員・「歯舞」を読めなかった島尻沖縄北方担当相・原発事故後の除染などの長期目標を「何の科学的根拠もない」と発言した丸川環境相・「奴隷が大統領」などと発言した丸山議員…安倍政治はなんと恥ずかしいことでしょうか。国会議員レベルとはとても思えません。このような人たちを議員や大臣に任命した自民党と安倍首相自身は何とも思わないのでしょうか。日本国民の平和と命は、安倍政治には決してゆだねまい。(瀬下)